

チャレンジふくしま

応援隊通信



平成 27 年 11 月 vol.6

全国各地の福島県人会が本県の応援隊として、県外の人々に「ふくしまの今」を情報発信し、本県の現状を正しく理解してもらうことで、東日本大震災・原子力災害の風評払拭・風化防止を図ることを目的とする「チャレンジふくしま応援隊」情報発信事業（昨年までの「ふくしまからはじめよう。応援隊」情報発信事業から改称）を行っています。平成 27 年度は応募のあった 11 県人会の御協力により実施しています。

「応援隊通信」では、各県人会の活動の様子をご紹介します。

応援隊参加県人会の現地研修会

「応援隊」として活動いただく県人会の皆さんに本県の現状を直に見ていただき、本県の復興状況などへの理解を深めていただくことにより情報発信活動の充実を図るために、7月9日(木)から10日(金)にかけて、福島県内での現地研修会を実施しました。

今年度の現地研修会は津波被害を受けた相馬市で開催し、10 県人会 18 名にご参加いただきました。

初日は、震災の記録資料を収蔵している「伝承鎮魂祈念館」を視察後、県水産試験場相馬支場にて魚介類の放射性物質検査体制を学びました。



(伝承鎮魂祈念館)

その後、松川浦での全体研修会にて各県人会の活動報告と情報交換を行いました。



(全体研修会)

2日目は、災害公営住宅や防災備蓄倉庫、全村避難が続く飯舘村の状況を視察しました。



(飯舘村の除染廃棄物)

2日間の現地研修を通じ、復興に向けて歩み続ける福島の方の姿をご覧いただき、正確な現状を県外の方に発信していただく一助になれば幸いです。

ひろしま福島県人会

5月3日～5日、ふくしまデスティネーションキャンペーンPRのため、「ひろしまフラワーフェスティバル」(FF)に出展しました。

観光PRの他、大震災からの復興状況を広島市民にお知らせする絶好の機会を考え、福島民報社のパネルをお借りして展示しました。



(「きんさいYOSAKOI」参加の遊舞炎舞(須賀川市)と)



(テント内の様子)

県人会としては初めてのFF会場への出展となりましたが、「広島市民への福島の現状報告の場として」、「30歳代・40歳代の会員の参加」、「これまでに福島を支援してくれた支援者との再会の場」など思わぬ効果がありました。

小平市福島県人会

11月14日～15日、県人会連合会(青森県、秋田県、岩手県、福島県)が、「小平市産業まつり」に参加しました。

小平市福島県人会では、商工会の協力を得て、災害復興物産品コーナーを設け、災害復興に協力しました。災害復興支援の「のぼり旗」を立て、試食品コーナーを置き、県産品と観光のPR、アンケートのお願い、義援金募集等を行い、災害の風評・風化に関する情報発信活動を実施しました。



(ふるさと物産展の様子)

越谷市福島県人会

10月25日、「越谷市民まつり」に出展した越谷市福島県人会の活動結果報告の中で、貴重なご意見をいただきましたので、ご紹介します。

「一般市民の福島県産品に対する放射能アレルギーはほとんど無くなっているのではないかと感じました。ふくしま県産品の販売が未だに回復していないのは、プロの市場関係者に原因があるのではないかと。卸売業者等の市場関係者が福島県産品に未だ過剰反応している為で、県側が取り組むべきはこの様な市場関係者の対策ではないかと思料した次第です。」

【編集・発行】

福島県 県民広聴室 TEL:024-521-7013 Eメール:koucho@pref.fukushima.lg.jp

